

どすこいかわら版

発行 墨田区 編集 NPO法人て一ねん・どすこい倶楽部

80年の思い出 秋葉榮子

昭和1桁生まれの私も、いつの間にか80も半ばとなり、電車やバスで親切な方に席を譲られるようになり、感謝です。

幼少時代に支那事変が起きました。その後、昭和16年12月8日に真珠湾攻撃が起こり、大東亜戦争が始まりますが、あの朝のラジオ



から流れるアナウンサーの緊迫した声が今でも耳に残っています。「臨時ニュースを申し上げます」と何度も何度も。現在の中国や南の島々での戦いも毎日ラジオから流れていました。

2年3年と過ぎ、徐々に

戦争や日本軍の様子も心の痛むニュースが多くなり、物資も不足し、お寺の鐘や鉄の鍋釜や火箸のはてまで、艦や武器を作るためと国に差し出しました。そんな中でも一番身に染みたのは食べ物物の不足でした。現在の日本は売れ残った物を捨て

ているとのこと、その量の多さや金額に驚きます。戦中・戦後と物の不足した時代に育った私の世代には、とてもとても心が痛む事実です。

女学生時代の英語の時間は必ず作業で、田舎の農地で麦ふみや畑の雑草とり、又、校庭に防空壕を掘ったりもしました。学校は学校工場となつて、ミシンやボタン付けなどを行い、勉強は出来ない状態でした。

昭和20年8月15日、天皇陛下(昭和天皇)の玉音放送で終戦となり日本は敗戦

!! 私は女学校の2年生でした。それから学校では、アメリカの指導で、戦争にかかわる言葉や意味などが



posts.jp - 28587275

書いてある教科書を墨汁で塗りつぶすことを最初に行い、その中には夏目漱石の文章も有りました。唯一、救われたのはスポーツと音楽でした。バスケットボールやバレーボールなど、1個のボールを大事に修理しながらみんなで遊び、コーラスなども、戦時中は英語や敵国の歌は駄目だったので自由になり、こっそりジャズも唄ったりしました。その頃がとても懐かしいです。

今の日本ではいろいろな恵まれて生活をしています。物が無かった時代が忘れられず、使わなくなった

物でも捨てられません。「もったいない、まだ使えるから」と…。捨てることの難しさに心を痛めております。

そんなこんなで今を生きています。平成も31年春で終わるとか、これからの世の中がどうなることかと考えますが、平和でありますよう願うばかりです。

年齢と共に体が思うように動かず、ちょっと自分にいらつく事がありますが、心の中で無理しないことと言ひ聞かせています。年齢には勝てないことが沢山あります。

どこかで、皆様にお世話になることがあると思います、その時はどうぞよろしくお願いいたします。



「中年子育て奮闘記」その45 鈴谷 明

「保育園とは 何だろう?」①

間もなく年度末です。いろいろと慌ただしい時期ですが、そんな時でも、ふとぼんやりする瞬間があった。去年の、一昨年の、3年前の今頃は何をしていたんだっけ? などと意味もなくいろいろな過去の出来事を思い返してしまうことがあります。その中でもいつも思い出されるのが、娘の保育園探しで近隣の保育園施設を見学させていただいていた時のことです。

新しく設備も整っているけれど事務的な印象の強い施設。古くて小規模で、でも、職員の方々に親近感や安心感が抱ける施設。小さな子供たちにも芸術・音楽・語学など、英才教育を施す工夫を行っている施設。のんびりとお絵かきやお庭遊びをさせながら、運動会やお楽しみ会、夏祭りなどのイベントを利用して、子供たち自身でも考えなければならぬ機会を与えている施設等、様々でした。

娘が通っている施設は地味ですが、「子供たち自身で問題を解決してい

く力を身につける」ことに重点を置いていっていると感じています。他の施設から転園なさってきたお子さんの親御さんが、「今までの施設は英才教育重視だったせいか、子供がスケジュールに支配されているような感が否めなかった。でも今は、子供らしく伸び伸びしてほっとしている。」とおっしゃっていたのが忘れられま

せん。

これとは別に、ある近所の方と子供の英語教育についてお話しする機会があり、「幼少期からの英語教育は、グローバル教育の一環だと聞いているんだけど、グローバル教育って一体何だろうか。」という話題になりました。「日本を飛び出して世界を舞台に活躍して欲しい。そのためには早いうちから、英語をモノにしなければ始まらない!」 「でも、

日本語もままならないうちから、外国語の教育なんて大丈夫かな?」大人たちの議論は賑やかでした。でも、その脇で遊んでいる小さな子供たちの肩に、大人たちの勝手な望みが重くのしかかっているようにも思えてきました。

*保育制度は自治体によって異なる場合があります。

手軽にクッキング 100 <2月のご飯>

「鬼は外の豆が残ったら～ご飯」

<材料> 4人分 (1人分283kcal)

米	2合
だし汁	350g
酒	大さじ1
しょう油	小さじ2
塩	小さじ1/2
人参	3cm
しめじ	1/2房
節分用いり大豆	1/3袋
白いりごま	少々



<作り方>

1. 米はといでおき、だし汁を加えて30分以上置く
2. 人参はみじん切りにする
3. しめじは石づきをとり、ほぐしておく
4. 1の米を調味料で味付けし、ひと混ぜしたら、2の人参と3のしめじを米の上に混ぜずにのせる
5. 4に、節分用いり大豆も加え、そのまま炊く
6. 茶わんに盛り、白いりごまをふる

※節分用の豆が残ることはありませんか?そのまま食べるとむせやすいので、炊き込みご飯に応用して、どうぞお試し下さい。

(協力:食育支援部)

「春告げ鳥と夏告げ鳥」 つるおか節子

今年も又、この季節がやってきた。2月生まれの私は、なぜか子どもの頃から、この寒さの残る冬の終わりから、春に向かう時期がとても好きだった。18歳になるまで千葉の大自然に恵まれた地で育った私は、その恩恵をたっぷりもらっていたことに気づかされる。

都会に移り住んでしまった今となつては、懐かしい体験となつて想起起こす事がある。私の実家の庭に、1本のしだれ梅の木があった。小ぶりの老木で、幹はいつ枯れてしまうかと思わせるほど荒れていたのだが、それでも毎年美しい花を見事に咲かせてくれて感動をもらったものである。

季節が巡り、1輪ずつ梅の花が咲く頃になると、それは突然にやってくる。春告げ鳥、鶯の初鳴きである。最初はお世辞にも美声とは言えないが、よちよち歩きの幼児に似て、それがだんだん上手になっていく。日々楽しみにしていたものだった。しかし、その青丹色あおにいろの

独唱の主には決して近寄れなかった。いつも梅花の間に見え隠れして、遠くから眺めるだけだったように思う。そういえば、「鶯の鳴き声は左耳で聞け」と言われるが、その所以もついぞわからないままである。



梅の花がいよいよ終わりを告げる頃、桜花が開花する。その頃になると成熟した鶯は、次第に谷渡りの激しい鳴き方に変化していく。満開の桜花の中で、ひとしきりさえずり渡る鶯の合唱もまた見事であった。

さて、桜花はあっという間に葉桜に変わり、いつしか自然は新緑

の世界へと変化していく。初夏の心地よい風が吹くこの頃、これまで突然に天空から鳴き声の贈り物



がある。その主はホトトギス。夏告げ鳥の到来だ。世間では「特許許可局」とか「てっぺんかけたか」と鳴くといわれているが、そんな色気のない言い方は許せない。

実際はもっと爽やかで美しい鳴き方だ。残念ながら私は、ホトトギスの鳴き声は大人になってから知ったのだが、実家に帰省した折、偶然耳にしたホトトギスの声に、いたく感動したものだ。子どもの頃から聞いていたはずなのに、残念な思いが湧いた。

十数年前の事だが、母の介護にて実家に通っていた頃、車椅子に乗った母を連れて田舎道を

散歩中、天高くホトトギスの鳴き声が耳に響いた。いつしか「♪卯の花のおう垣根にホトトギス早やも来鳴きて」と、母と一緒に口ずさんでいた。歌の好きな母とのあの安らぎの瞬間が懐かしく、今でも瞬時に蘇る。故郷は、遠きにありて思うものか!



「シニア人材バンク

登録者募集中」

ボランティア活動をしたい方の登録と依頼に応じた派遣を行っています。

パソコン、麻雀、将棋、子育て支援、日本語支援、家事援助、生活支援、健康教室のお手伝い、各種講座、講演会の企画から会場の準備作業など、どなたでも気軽に参加できる、さまざまな活動をしています。

皆様の知識、経験、特技、趣味等を地域で活かしてみませんか?

(4) 元気で100歳!! 墨田で生きよう!! 定年後の大きな生きがい発見!!



平成30年度 第4回

セカンドステージセミナー

～元気で100歳 今年も墨田で粋に暮らそう～

♪バスーンの音色を聴いてみよう♪

日本びいきの仏人奏者の演奏とお話しをお楽しみに

日 時 : 平成31年3月13日(水)
午後2時から4時まで
内 容 : 第1部 ◇日本の童謡・唱歌・演歌 演奏
スタン・ジャック氏
第2部 ◇簡単なストレッチ体操
鈴木孝志氏(理学療法士)
◇みんなで一緒に歌いましょう
吉岡リサ氏(歌手)
会 場 : すみだリバーサイドホール2階イベントホール
(墨田区役所併設)
参加費 : 無 料
定 員 : 200名



basson

♪どなたでも、お気軽にお越しください♪

お電話にて、以下へお申し込みください。(平日 午前10時～午後4時)

NPO法人 てーねん・どすこい倶楽部 事務局 ☎ 5631-2577

■主催: 墨田区

■企画・運営: NPO法人てーねん・どすこい倶楽部(墨田区東向島1-17-8)

「老い支度・死に支度を学ぶ」シリーズ 第2回

日野原重明先生の生き方・死に方から学ぶ

日 時	2019年3月30日(土) 14:00～16:00 (※開場13:30)
会 場	鉄門記念講堂 (文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟14階)
講 師	川越 厚(医療法人社団パリアン 理事長 クリニック川越 院長)

『死に遭遇して変わったこと、変わらなかったこと』

“自分自身の死”に遭遇すると、ひとは“生き方が変わる”

日野原先生は、いつ死に遭遇したか?

そこで、先生の生き方はどう変わったか?

『死を前にしての“死の受容”と“納得死”の実現』

死を受容していても、納得のいく死の実現は難しい

日野原先生は死を受容して、旅立たれたのか?

その死は、先生にとって納得のいく死であったのだろうか?



定 員	200名(先着順) 参加費 無料
お申込方法	参加ご希望の方は、お名前、電話番号・メールアドレス等ご連絡先をFAX・メール・はがき・直接事務局へのいずれかで下記へご連絡ください。複数名の方でまとめてのお申し込みも承ります。
お申込・問合せ先	NPO 法人在宅ホスピスボランティアきぼう 事務局 FAX: 03-5669-8310 / メール: info@volunteer-kibou.org はがき: 東京都墨田区立川2-1-9 KHハウス



発行 墨田区福祉保健部高齢者福祉課
〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋1-23-20
電話 03-5608-6168

編集 NPO法人てーねん・どすこい倶楽部
〒131-0032 東京都墨田区東向島1-17-8
電話 03-5631-2577 FAX 03-5631-2578
(受付時間: 平日午前10時～午後4時)
メール tehnendosukoiclub@jcom.home.ne.jp
ホームページ <http://tehnendosukoiclub.jpn.org/>

各局で、「平成30年を振り返って」、というタイトルで皇室がとりあげられたり、歌番組が組まれたり、何か急ぎ足で平成が過ぎようとしているように感じます。もっとゆっくりでも良いのでは。

編集後記